

キャリア教育に重点をおきたい理由(根拠)

◆現状と課題

- 生徒は全般的に素直で明るく、概ね落ち着いた雰囲気です。学校行事や部活動等に前向きである。
- 部活動加入率は文化・運動系合わせて約62%程度である。
- 長欠生徒の割合は高く、生徒の家庭も含めた支援が大きな課題である。
- 学習面では市学力検査から全国・市を同程度あるいはやや下回り、基礎学力も含めて学力向上は課題の一つである。

◆学習指導要領が育成を目指す資質・能力

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- (3) **学びに向かう力、人間性等を涵養すること。** ← 本校にとっての課題

➤「キャリア教育」の視点を活かした教育活動の推進

【キャリア教育】 社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

- ⇒児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付ける。⇒「**キャリア教育の視点=4つの能力のフィルターを通して考える**」
- ⇒特別活動を要しつつ各教科等の特性に応じて、キャリア教育の充実を図る。
- ⇒各教科等すべての教育活動で、基礎的・汎用的能力の育成を目指す。

「自律」から「自立」へ ～集団生活における学びを自ら将来に繋げる生徒の育成～

➤生徒が自ら学びに向かう授業づくり ～めあて・問い・振り返りの工夫～

- 自己理解・自己管理能力 = **主体的な学び**
- 人間関係形成・社会形成能力 = **対話的な学び**
- 課題対応能力 = **深い学び**
- キャリアプランニング能力 = **どうにかする力**

- キャリアプランニング能力 = **どうにかする力**
将来を見据えた目標⇒「いま」何をするか
⇒これからどうするか
⇒スモールステップ
- 何かに取り組もうとするとき…
※目標⇒
計画⇒実践⇒評価⇒改善
(P) (D) (C) (A)
⇒小さな自信の
積み重ね
⇒将来へ繋ぐ

キャリア教育における
基礎的・汎用的能力

対話的な学び

人間関係形成・
社会形成能力

どうにかする力
(生き抜く力)

キャリアプランニング能力

深い学び

課題対応能力

主体的な学び

自己理解・
自己管理能力

キャリア・
パスポート

『キャリア』: 人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出して行く連なりや積み重ね(文科省HP)⇒日々の経験や活動を通して獲得する豊かな学び